

中学サッカー部とクラブチームについての比較研究

—特にその後の進路に着目して—

下 祐太朗 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 海老島 均

キーワード：中学校 サッカー 進路

1. 緒言

これまでは、学校の部活動が一般的な人たちのスポーツの始まりである。そんな中、1993年Jリーグ発足以来、Jリーグの下部組織であるジュニアユースチームに人気が集まり、他にも地域のクラブチームが増え続けている。私たちが中学高・高校に入学時、入学する学校の部活動に入部するのが当たり前の時代だったが、現在は地域クラブチーム数が増加していることにより子どもたちは小学校・中学校卒業後、プレーするチームを選択しなければならない時代になっている。

2. 研究方法

中学サッカー部に所属している者63名とクラブチームに所属している者66名の計129名にアンケート調査を行なう。アンケート内容は中学卒業後の進路について(チーム選択、サッカーを続けるか)また、現在所属しているチームにどのような不満があるか、それぞれどのようなイメージがあるかを調査する。

3. 結果と考察

中学サッカー部のメリットは、「文武両道ができる」、「授業が終わってすぐに練習ができる」ということである。クラブチームのメリットは、「良い指導者がいる」、「良い環境でサッカーができる」(チームによって様々)ということがある。高校生になってサッカーをするかという質問に対して、中学サッカー部所属の者は、5割であったのに対してクラブチーム所属の者は、9割がサッカーをするということが結果に出ている。更に中学サッカー部所属の者は、全員の10割が高校サッカー部でサッカーがしたいという偏りがでている。それに対してクラブチームに所属する者は、高校

サッカー部でサッカーがしたいと考えている者が多いものの、クラブチームでサッカーがしたいという者も、2割近くいたことが明らかになった。中学サッカー部からクラブチームに行く選択肢はなく、クラブチームからクラブチームに行く選択肢は多いことが分かる。また、中学サッカー部は進路を選ぶ際に、楽しみ志向が強いが、クラブチームは競技志向が強いことがわかった。

4. まとめ

今後の課題として、学校サッカー部は指導者の確保が挙げられる。部員が少ない、チームが弱いといったサッカー部では、指導者の不在や指導力の問題がある。外部指導者を雇うことや指導者の質の向上が必要である。クラブチームの今後の課題はクラブを取り巻く環境である。サッカーを行なう設備、グラウンドの確保、帰宅時間、費用の問題など、クラブチーム間によっては差別化されているのが現状である。こうしたチームの特徴をクラブチーム同士で決して対抗せず、切磋琢磨しながら連携体制を築き、より良いクラブチームの競技環境を作ることが必要であると考えた。

中学サッカー部とクラブチームまたは、高校サッカー部とクラブチームが現在よりももっと交流を深め、近い関係でお互いいい刺激になって、成長していくことが重要である。

5. 主要参考文献

黒田和生(2008):『トモニイコウ。We walk together forever.』, アートヴィレッジ
荒井貞光(2003):『クラブ文化が人を育てる—学校・地域を再生するスポーツクラブ論』, 大修館書店

